

がくちき

がくちき
学校と地域をつなぐ教育広報誌

第15号

特集

- 狛江第五小学校
- 五小・四中エリアを支えてくれる方々
- 狛江第四中学校

令和4年度よりコミュニティ・スクール（CS）を導入しました！
「地域とともにある学校」を目指し、学校をとりまく地域や家庭、すべての皆様に
学校にかかわっていただく仕組みです。こちらから「CS通信」にアクセスできます！



写真 狛江第五小学校

1 学期も終業間近の7月中旬。細谷校長を訪ねて狛江第五小学校（以下、五小）に。「普段は職員室で執務しているんです」。その一言とともに校長室の扉を開くと、そこには子どもたちが喜びそうなアイテムがいっぱい。校長先生の遊び心があふれています。そんな細谷校長に、五小の特色や学校経営のビジョンを聞きました。



細谷 俊太郎
Syuntaro Hosoya

profile

狛江第五小学校第15代校長。平成26年4月、狛江市教育委員会に統括指導主事として着任。その後、渋谷区立小学校の校長、多摩市教育委員会の参事を経て、6年ぶりに狛江市に帰任。統括指導主事として勤務した経験を生かした学校経営が期待されています。

出身は東京都。趣味はないと言いつつも、料理は魚も鶏も自ら捌くほどの腕前。とにかくおいしいものが好き。狛江のおいしい店にも足繁く通い、狛江の枝豆やパクチーもよく購入されているそうです。子どもの頃の得意科目は算数・理科。苦手な科目は音楽。

五小 の特色は地域の関わりが強いことです。朝の登校時には、地域のボランティアの方が要所に立って見守ってくれます。そして、いつも子どもたちに挨拶をしてくれるので、子どもたちもよく挨拶をします。こんなに挨拶ができる学校は珍しいと思います。外でもきちんと挨拶をします。保護者の方々も挨拶をしてくれます。子どもたちも、保護者の方々も、地域の方も、全体が挨拶をするような感じになっています。その原点は顔が見える関係からくるものだと思います。地域の力で成り立っているんです。

地域 の特色といえば、「五小サポーターズ」があります。PTAが中心となって、地域の方が五小を盛り上げようと様々なサポートをしてくれます。例えばプールの授業では、保護者の方が見守りをしてくれます。そのため教員は指導に専念できます。ちょっと声をかけるだけで何名か来てくれるので、とても助かっています。五小の保護者の方々は、学校を理解してサポートしてくれます。我慢強く応援してくれます。

子ども は「知的なやんちゃ坊主と知的なお転婆娘」がいいなと思っています。やんちゃでお転婆でいいんだけど、知的であってほしいと思います。主体的に学ぶ子。よく考える子。心の面で言うと、多様性を認められる子。そして、柔軟性のある折れない子。竹のように曲がることはあっても折れることなくまっすぐ伸びてほしい。心の中では、こんな風に育っていき、大人になってほしいと思っています。



子どもたちの登校を見守る
三野勝博さん（左）と今野盛雄さん（右）。
「おはようございます」の挨拶が行き交います。

放課後の学習支援活動である「地域未来塾」では、子どもたちが楽しく勉強しています。成城大学や明治大学の学生に先生になってもらって、緑野小学校や狛江第四中学校（以下、四中）の卒業生も来てくれています。私の構想ですが、四中生に教えに来てもらうのもいいかなと思っています。勉強は必ずしも得意でなくてもいいと考えています。自分が教えてできるようになる姿をみれば中学生も自己有用感が高まっていくのではないかなと思っています。

四中との連携に関しては、四中生に運動会のお手伝いをしてもらいました。ポスターを作って募集し、準備を進めましたが、雨で運動会が延期になり、日曜日の開催になったので、予定よりも来られる生徒が少なくなりました。けれども、来てくれた生徒は1年生をトイレに連れて行ってくれたり、徒競走の順位の案内やゴールで先生の手伝いをしてくれたり、霧吹きでミストを撒いてくれたりと活躍してくれました。秋の学芸会も手伝ってもらいたいと考えています。

このほかにも、例えば、四中にハードル走の選手だった体育の先生がいるので、ぜひ小学校にもハードル走の授業の時に先生に来てもらいたいと思っています。競技大会で使用するハードルはかなりの高さなので、フルスピードでハードルを跳び越えていく姿を五小の

子どもたちが見たらびっくりすると思います。小学生は陸上競技を間近で見られる機会が少ないので。

また、音楽について、合唱祭のリハーサルの時に子どもたちが四中に行って見せてもらえないかと話をしています。中学生の合唱は迫力があるし、きれいなのでそれを見て自分たちの将来を考えてもらう機会になったらと思います。

さらには、教員の授業参観も普段からできるといいなと考えています。四中とはこうして連携を深めたいと考えています。



丁寧に管理された芝生の緑が映える。



・ 学校紹介 ・

狛江第五小学校 風さわやかな 寛東の
KOMAE DAI-GO ELEMENTARY SCHOOL

- ◆開校年 昭和43年
- ◆所在地 狛江市東野川1-35-13
- ◆児童数 653人（令和5年5月1日現在）
- ◆教育目標 明るい子 考える子 強い子

芝生 は五小のシンボルだと思っています。名刺にも芝生の写真を載せています。五小の歴史に比べたら比較的最近整備されたものですが、地域の方もたくさん関わってくれています。グリーンプロジェクトといって毎週整備しているし、子どもも全学年の保護者もみんな育てています。身近な芝生なので、特段何かをやっているわけではないけれど、狛江高等学校箏曲部に芝生で演奏してもらったり、1・2年生は芝生でよく遊んでいるし、生活科で使ったり。涼しいし、良い場所です。



「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」とは？
 学校と地域・家庭が連携・協働し、質が高く、特色のある教育を目指す仕組みとして、令和4年4月から狛江市でスタートしました。狛江市では、中学校区ごとにゾーンを設定し、学校運営協議会を設置しています。「地域とともにある学校」のさらなる推進を目指します。



四中ゾーン学校運営協議会
 会長 **千葉 桂樹** さん

Profile

四中ゾーンの学校運営協議会会長。
 過去に五小と四中のPTA会長を務め、現在も覚東町会会長など様々な地域活動を行っている。
 ご自身は、五小・一中の卒業生。
 中学時代はラグビー部・ブラスバンド部に所属し、ラグビー部では2年連続で関東大会制覇の偉業を成し遂げる。
 趣味は、ギターやウクレレの演奏。
 信条は、「自分にできることはできるだけやろう」。

Q 学校運営協議会では、どのような取組みをしていますか？

学校は「地域のシンボル」であるような形にしていかななくてはならない

学校運営協議会は令和4年度から始まりましたので、具体的な取組みについては、様々な形を模索しながら、これから動いていくことになるかと思えます。ただ、考え方としては、地域・保護者・学校が協働して様々なことを行うことができるよう、その関係性をより築き上げていくことだと思えます。

というも、コロナ禍の3年間で、地域と学校、保護者と学校が分断されてしまった感覚があります。

やはり、この3年間というのはものすごく大きくて、子どもたちもずっとマスク生活で、給食中でもしゃべることができない状態でした。

地域の方や保護者の方にとっても、学校での行事もなくなり、学校に立ち寄れない、立ち入りづらい雰囲気があったと思います。コロナ禍前は密接であったものの、分断により生まれてしまった距離感をどうにかして埋めていかなければなりません。少しずつでもそれを元に戻して行って、地域と学校、保護者と学校の距離が近くなって、みんなで学校を支え、盛り上げていく機運を作り上げていき、学校は「地域のシンボル」であるような形にしていかななくてはならないと思っています。



Q 地域でどのような子どもたちを育てていきたいと考えていますか？

自分たちの学校を「良い学校だ」「大好きだ」とずっと思っほしい

私は、やはり、大人になっても「五小・四中のことが好きだよ」とか「狛江のことが好きだよ」と言ってくれるような子どもたちが増えていってくれたら良いなと思います。

自分たちの学校を「良い学校だ」「大好きだ」とずっと思っほしいです。

そのためには、「いろんな試練があったけど、楽しい学校だったな」というような学校であってほしいです。狛江という地域についても、「狛江に住んでいて良かったな」と、狛江で育ったことにプライドをもってほしいです。そして、いずれ、地域に貢献してくれれば、それはすごくありがたい話だなと思います。

五小・四中エリアを
支えてくれる方々

「地域コーディネーター」とは？
 学校と地域との橋渡し役を担います。学校と地域の継続した関係性の構築、地域との連携による教員の負担軽減、地域人材の学校への参画を促す役割などを果たします。

五小地域コーディネーター
 住友 和子 さん

Profile

四中ゾーンの学校運営協議会副会長。
 大学生などの地域住民の協力のもと、放課後における学習習慣の確立や基礎学力の定着を目的とした学習支援活動「地域未来塾」の運営も五小にて行っている。
 過去に五小・四中のPTA会長を務める。
 学生時代から英語に興味があり、英語が堪能で、アメリカに7年半在住。
 様々な国際経験を子どもたちに還元したい。



四中地域コーディネーター
 梅本 ろり絵 さん

Profile

狛江第五小学校・緑野小学校・狛江第四中学校の主任児童委員（民生委員）であり、四中ゾーンの学校運営協議会副会長。青少年の健全育成を目的とした青少年育成委員会の第四育成委員会（四中学区）の委員長も務めている。過去に四中のPTA副会長を務める。学生時代は、学級委員を務め、周囲からの信頼が厚い存在であった。趣味は、野球などのスポーツ観戦。

住友さん

Q 五小地域でどのような活動をしていますか？

私は、五小でクラスサポートをしています。クラスサポートは、授業に入って、先生のサポートをする役割です。10人くらいのチームがあるので、シフト表を作って、入れる時に入るという感じです。また、校外学習時の子どもの見守り活動や、味噌づくり・稲作の支援などもしています。

Q 地域でどのような子どもたちを育てていきたいと考えていますか？

狛江の子どもたちには、とにかく英語を使ってコミュニケーションをすることに慣れて、海外へチャレンジするようになってほしいです。やはり、狛江の外に出ていくことで、今いるところの本当の良さがわかると思います。狛江の良さだったり、日本の良さだったり、誇れるものは多くありますが、それが誇れるものだと知るために、海外を経験してほしいです。

梅本さん

Q 四中地域でどのような活動をしていますか？

様々なことをしていますが、例えば、毎週火曜日に四中生を対象とした「自習室よつば」の活動をしています。自習室なので、自分たちで勉強してもらってですが、1人だけで勉強するというのではなく、友達同士で教え合ったり、みんなでワイワイ勉強できる場を四中校内で提供したいです。

Q 地域でどのような子どもたちを育てていきたいと考えていますか？

私は、生きていく力を持った子どもたちになってほしいです。生きていく力ってなんだろうって思うけど、勉強もそうだし、学校に来て友達とコミュニケーションを取ることも生きていく力の1つだろうと思います。そして、狛江の友達は一生涯の友達ですので、そういう繋がりも作ってほしいです。

四中ゾーン
「小・中連携の日」が行われました！

「小・中連携の日」とは？
 小・中学校の教員が授業を相互に参観・参加、協働することを通じ、異校種の実態を把握します。
 小学校から中学校へ、学習指導と生活指導の両面において円滑な接続を図る取組みです。



◀ 四中佐伯校長（左）と五小細谷校長（右）。固い握手を交わしました！

四中ゾーンの教員同士で情報交換を行いました！



校長

になったのは、「こういう学校にしたい」という理想があったからです。生徒が目を輝かせて何事にも前向きに活動できる学校。つまり、中学校三年間の中で、自分の居場所があつて、自分を活かせる場所がある。勉強でも、学校行事でも、生徒会活動でも、自分の力を試せる活躍の場面があれば、子どもたちは目を輝かせて活動できる。そういった場所が必ずあるということ。四中は学校行事が盛んですが、行事だけでなく、日々の活動一つひとつを大事にしてきているので、そういった面では私が理想としている学校に近い学校だと思えますし、今後、様々な取組みがより充実していくと思います。

そして、中学校三年間には様々なことがあります。失敗したり、うまくいかないこともあると思いますが、失敗は失敗として受け止め、次に頑張ろうと前向きに取り組める、失敗を活かして決して諦めることなく次は頑張ろうと思える、それを支える教員集団で構成される学校を作りたいです。また、地域や学校によって環境は異なるので、それぞれの学校の強みを活かしていきたいと思います。

昨年、教育委員会の教育課程

の説明会でいただいた言葉、以前学級経営や特別活動の分野で使われた言葉でもあり、私も前々から注目していた言葉がありま。それは「支持的風土」という言葉です。自分の居場所があつて、自分の力を発揮できる場所がある学校。失敗や間違いを気持ちよく受け入れてもらえる環境を「支持的風土」と言います。教員にも今年の学校経営計画でこのワードを示しましたが、すぐに意味を捉えて受け止めてくれた教員もいました。失敗や間違いを受け入れてくれる。こんな

なこと言ったら笑われてしまうんじゃないかとか、間違えたら嫌だなとか思わず、どんな発言でも受け入れてくれる安心感と云いますが、難しいんですけどね、口で言うのは簡単ですが。まずは授業中での発問や、グループワークの指導等を大事にしていきたいと考えてます。ここで「支持的風土」を培えば、主体的に安心して学べることに繋がっていくと思います。「支持的風土」。最近このワードは色々ところで使っている言葉で大切にしていきたいと思えます。

学校紹介

狛江第四中学校 鳴り渡れ 友情の鐘
KOMAE DAI-YON JUNIOR HIGH SCHOOL

- ◆ 開校年 昭和 55 年
- ◆ 所在地 狛江市東野川 4-1-1
- ◆ 生徒数 294 人 (令和 5 年 5 月 1 日現在)
- ◆ 教育目標 自立 連帯 健全

道徳 の研究を行ってきたベースが四中にはあります。担任だけでなく副担任が授業をしたり、ローテーションで指導するクラスを変更したりしています。担任だけでは良くも悪くも担任のカラーが出てしまうので、全く違う視点で、同じ課題に取り組むと、アプローチの仕方に違いがあり面白いです。学年によって多少やり方は異なりますが、このような取組みを、特別ではなく、当たり前に行っています。授業を観察すると、どの視点を中心に授業を展開しようとしているのかがわかるので、学年の中での教材に対する共通理解ができたうえで、実践できていると思います。



道徳授業 地区公開講座の様子



四中スペシャル ライフハック



四中のシンボル 友情の鐘

四中

ゾーンの強みは、地域の教育力にあります。

四中スペシャルは、その強みを活かした特色ある取組みの一つです。四中スペシャルとは、総合的な学習の時間の「生き方学習」の一環で行っており、毎年三月の第一土曜日に地域の方々とゲストティーチャーとしてお招きし、ワークショップ形式で普段なかなかできないような体験的な学習を学年を超えて実施しています。昨年度はタッチラグビーやダンス、ヨガ、バルーンアート、紙ヒコキ、手話などのほか、地域の文化として絵手紙の講座を設けました。生徒アンケートでは、どの講座も評判が良く、なかでも少林寺拳法や手話入門は好評でした。他にはライフハックと言って、自衛隊の方が実体験で役立つ応急措置を行う講座や、薄い紙を切つて表面を飾るデコパージュ、専用の糊を使って箱などを作る講座も人気がありました。各講座は、地域の専門家の方に協力いただき成り立っているのですが、みなさん声をかけると快く引き受けてくださいますので大変感謝しております。

二学期に実施している防災体験教室でも、地域の育成委員やPTAの方に協力いただいでい

狛江第四中学校 校長先生に聞きました

interview

狛江第四中学校（以下、四中）の校長として三年目、狛江市の中学校の校長として八年目のシーズンを過ごす佐伯校長。温かな眼差しの中に見える学校の姿は、自分の居場所があつて、自分の力を発揮できる場所がある学校。学校にこそ支持的風土を。理想の学校を目指し、先生たちを束ねる佐伯校長に、四中の特色や学校経営のビジョンを聞きました。

ます。今年度は十月初旬に実施する予定で、三年生が土のうやテント、簡易トイレを作るなど、市の防災訓練の中学生版を考えています。これらの活動にも地域の方のお力添えがありますが、決して特別ではなく、当たり前のようにこういった活動があります。

そして、令和四年度からコミュニケーション・スクールが立ち上がりました。何か新しいことを行うというより、四中ゾーンの強みを活かし、これまでやってきたことを見直して、より良いものにしていきたいといったことを狛江第五小学校の細谷校長先生とも話をしています。

生徒

はとても穏やかで、素直でとても真面目です。

授業や部活動、生徒会活動等に対してとても前向きに取り組んでいます。この点は間違いなく胸を張って言えます。子どもたちがお互いの存在を認め、協力し、高めあうシーンを様々な場面で見ることが出来ます。この様子を見られることが我々教師の喜びであり、力の源でもあるし、心から応援したいと思つています。その反面、弱さとか、やや指示待ちな面があるのか、いずれ社会に出ていくためにも、精神的なたくましさや自主性、実践力の育成が今後の課題だと考えています。

profile

佐伯 英徳
Hidenori Saeki

狛江第四中学校第9代校長。東京都教育庁での勤務、目黒区立中学校の校長、その後、福生市と目黒区教育委員会での勤務などを経て、平成28年4月、狛江第二中学校に校長として着任。令和3年4月から狛江第四中学校の校長に。

出身は東京都。趣味は動物園・科学博物館巡り。年間パスポートを持っているほどで、カメラが趣味の奥さんと一緒に訪れている。お気に入りの動物はゴリラとマレーバク。子どもの頃の得意科目は英語・理科。それから体育に美術…。勉強は結構好きでした。でも、社会は苦手。スポーツは小学校4年生から高校2年生まで水泳をしており、専門は個人メドレーでした。



がくち

がく ちき
学校と地域をつなぐ教育広報誌



第15号

特集

- 狛江第四中学校
- 五小・四中エリアを支えてくれる方々
- 狛江第五小学校

令和4年度よりコミュニティ・スクール（CS）を導入しました！
「地域とともにある学校」を目指し、学校をとりまく地域や家庭、すべての皆様に
学校にかかわっていただく仕組みです。こちらから「CS通信」にアクセスできます！



写真 狛江第四中学校